



安芸太田町教育21もみじプラン教育目標 「地球・世界的規模の視野を持ち、世界や地域社会に貢献する人づくりをめざす」

ミッション 地域社会に貢献できる生徒の育成				ビジョン 主体的で協動的な学びの推進						
学校教育目標 学びを生き方につなぐ教育の創造				学校研究主題 深い学びを引き起こす授業づくり						
めざす生徒像 挑戦 感動 感謝の心をはぐくむ生徒				～「知識構成型シグノー法」を取り入れた単元開発と評価を通して～						
中期 経営目標	短期 経営目標	評価項目及び評価方法	評価基準	担当 分掌	中間 評価	最終 評価	達成状況及び改善策	評価委員の意見(最終)		
学力の向上	学習意欲の向上と自主学習の充実	基礎的・基本的な知識・技能の定着	・生徒質問紙「なぜ学ぶのか自ら考える」の肯定的回答85%以上 ・自主学習60分以上の生徒85%以上	教務 研究 部	B	B	「『なぜ学ぶのか』自ら考える」の肯定的回答78.0%(前期79.5%) 自主学習60分以上の生徒 平日65.0%(前期:67.0%) 休日72.5%(前期:69.2%)	「『なぜ学ぶのか』自ら考える」の肯定的回答は前期より数値としては下がっているが、その内容は、悩みながら深化していると捉えたい。たくさんの情報の中で、生徒が取捨選択して、自らの学びに取り入れることは難しいが、これからも一人一人の生徒に寄り添い、導いてほしい。 能動的に学ぶためには、問いを自分から立てなければならぬので、生徒にとって難しいことだと思う。しかし、現在の取組をさらに進めることで、単なる受験学習ではない、生涯学び続ける意欲や生きるための学力へとつなげる取組にしてほしい。 家庭学習の充実のために、まずは学習時間(適切な時間と時間帯の設定)の確保、保護者への啓発と協力依頼が必要だと思う。主体的な学習にするために、生徒に対して、「やりきれぬ負荷」をかけ「やりきらせる」指導が必要だと思う。 自宅で学習が定着してきていることを感じる。引き続き、個々の面談や家庭と連携し、60分以上の自主学習が行えるよう、指導してほしい。		
	協調学習の実践	深い学びを引き起こす授業の実践	・生徒質問紙「友だちの考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりすることで、学習内容の理解が深まる」の肯定的回答80%以上 ・各種学力調査で、すべての教科の平均正答率等が全国平均を上回っている。				B	B	「友だちの考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりすることで、学習内容の理解が深まる」の肯定的回答97.5%(前期97.0%) 1月に実施した標準学力調査で、全学年・教科で全国平均を上回っている教科は、15教科中11教科であった。 先端技術の活用や研修の持ち方を工夫し、協調学習の取組を中心に、実践-協議-改善のサイクルの中で指導力向上に向けた研修を行った。さらに研修を充実させていき、生徒の個別最適な学びと協動的な学びを充実させていく。	呉市立広南中学校との交流などにも取り組み、生徒の視野の広がりにつながった。昨年は81.1%だったが、97.5%はよい傾向だと思う。生徒自身が、対話的な学びの手応えを感じているのだと思う。引き続き先端技術を活用しつつ、協調学習の取組を推進してほしい。 子供たちが意識しているのは、15人程度の学級の平均点であって、全国といった大きな集団の中の平均点には届いていないと思う。 自分の理解度は、友だちに自分の考えを説明するなどといった対話の中で確認することができる。そういう点で協調学習は必要な取組である。 学校で学んでいることが日常生活や将来につながっていることを生徒に伝えていくことが必要だと思う。また、教科での学習内容を生活や地域と関連づけていくことが有用だと思う。先端技術の活用は目的を見失わず、取組を充実させてほしい。
社会に貢献する力の育成	自らの成長が実現できる	進路指導の充実及び進路実現に向かう意欲・態度の向上	・生徒質問紙「将来どんな大人になりたいか考え、そのために取り組んでいる」の肯定的回答率100%	生徒 安全 部	A	A	地域の大人の考えを聞く学習や自分の将来像をイメージさせる学習を行った。「将来どんな大人になりたいか考え、そのために取り組んでいる」の肯定的回答は89.7%であったが、1年生2名、2年生1名、3年生1名が「あまりあてはまらない」と回答している。	1年～3年生までの全員が、将来の夢や将来ビジョンを持ち、日々の学びが行えるよう、生徒一人一人にあった声かけや働きかけをお願いしたい。家庭の協力も大切だと思う。 いわゆる成功した人の話を聞くことも大切だと思うが、身近な人(たとえば親)の話を聞くのもよいと思う。保護者の中には話をすることが苦手な方もおられると思うので、聞き取りをしたり、手紙を書いてもらったりと工夫をして、足元の生活をしっかりと見させていくことも必要だと思う。 「大人ってなんだろう?」と考えさせるだけでもよいのではないだろうか。中学生は成長の過程だから、「なりたい自分」を見つければ、その「なりたい」という思いを育ててほしい。 学校の教育活動の中で、「学力の向上」と相まって生徒が今やるべきことの大切さを自覚してきているように感じる。保護者にもそういった視点で子供たちに関わってもらおうよう、連携していくことが大切だと思う。		
	実践意欲の育成	自己肯定感の向上	・成功体験と自信(i-check)の肯定的回答率85%以上				A	A	「成功体験と自信(i-check)」の肯定的回答84.5% 1年生:80.3%、2年生:87.5%、3年生:85.7% (前期:1年生:85.7%、2年生:92.8%、3年生:83.9%)	紙の折り方、カッターナイフの使い方、準備の仕方、整理の仕方、計画性(段取り力)等、高校生になっても不足していると感じることがある。「家の手伝い」という言葉が死語になっているようにも感じるので、日常生活での経験不足を補うためにも、ライフスキルトレーニング等で一人一人の生徒の力を見取り、指導につなげてほしい。 コロナ禍で経験する機会が減り、「こんなことが自分ではできる」「人から認められた」といった子供たちが自己肯定感を感じる場がなくなっている。自分で取り組んだことは自信や成長につながるの、そういった経験をさせてほしい。
	地域貢献の意欲と態度の育成	地域貢献活動への参加	成果指標 ・社会参画(i-check)の肯定的回答率85%以上 ・地域貢献活動後の生徒の感想(肯定的記述)				A	A	「社会参画(i-check)」の肯定的回答86.5% 1年生:85.7%、2年生:92.8%、3年生:80.9% (前期:1年生:90.4%、2年生:90.4%、3年生:88.0%)	地域の公共施設に設置する椅子のデザインを考える活動では、一つ一つの椅子に込められた生徒ならではの発想、思い、願いが表現されており、楽しく拝見した。生徒たちは、実際に活用されるという喜びを味わったと思う。 子供たちは、挨拶や地域のボランティア活動をよくしてきている。そういったことを通して、地域を好きになり、地域に誇りをもってほしい。 簡賀大銀杏のボランティア清掃や地域貢献活動を実施し、実施後の生徒の感想からは肯定的な記述が多くみられた。来年度も引き続き、特別活動や総合的な学習の時間等での学習を通して、地域とのつながりを大切にしたい。生徒が主体的に取り組む地域貢献活動を行ってほしい。
信頼される学校をつくる	学校の公開性の向上	保護者・地域への教育公開及び情報発信の充実	・保護者の学校満足度…85%以上 ・教職員の「生徒と向き合う時間が確保できていると感じる」に対する肯定的回答率90%以上	総務部	A	A	保護者の学校満足度は89.5%(前期:93.3%) 教職員の「生徒と向き合う時間が確保できていると感じる」に対する肯定的回答90.9%(前期:90.9%)	一年間大変お疲れ様でした。これから信頼される学校づくりに、校長先生を中心に取り組んでいかれますよう、先生方が魅力ある人間として、生徒たちと向き合っていてほしい。 学校は適切に保護者に対して情報を発信している。それをどう受け取るかは保護者側の問題だと思う。これからも引き続き適切な対応を続けてほしい。 コロナ禍の中で、学校を訪問することが躊躇されることもあるが、学校通信で学校の様子を要点を押さえて情報を発信してもらっているとと思う。		